

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予報第3号を下記のとおり発表したので送付します。

令和6年度病虫害発生予報第3号

令和6年5月29日
岡山県

予報概評

作物名	病虫害名	発生時期	発生量
水 稻	葉いもち ヒメトビウンカ ツマグロヨコバイ ニカメイガ	並 — — —	並 少 やや少 並
ジャガイモ	疫病	並	並
モ モ	灰星病 黒星病 せん孔細菌病 モモハモグリガ ナシヒメシンクイ カメムシ類	— 早 — 遅 — —	並 並 並 少 並 多
ブドウ	べと病 うどんこ病 灰色かび病 フタテンヒメヨコバイ	早 早 早 遅	やや多 並 並 少
トマト	疫病 灰色かび病 葉かび病	並 — 並	並 並 並
キュウリ	べと病 褐斑病 炭疽病	— — 並	並 やや多 並
ダイコン	軟腐病 コナガ	並 —	並 やや少
野菜全般	アブラムシ類 モザイク病 ミナミキイロアザミウマ	— — —	少 並 並
キ ク	白さび病 ナミハダニ	並 並	並 並

1. 普通作物

(水 稲)

(1) 葉いもち

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. 中北部地帯の田植時期、生育概況は概ね平年並である。

イ. 5月23日の季節予報(1か月予報)によると、6月の気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発生をやや助長する条件となる。

防除上の参考事項

ア. 育苗箱施用剤の残効は40~60日とされており、5月中旬までの田植えでは6月下旬頃から効果が低下すると考えられるので、その後病斑がみられる場合は薬剤を散布する。

(2) ヒメトビウンカ

予報内容

発生量 ヒメトビウンカ(第1世代成虫) 少

予報の根拠

ア. 県予察圃場における5月のヒメトビウンカ成幼虫の発生量は17頭であり、平年(77.4頭)より少なかった。

(3) ツマグロヨコバイ

予報内容

発生量 ツマグロヨコバイ(第1世代成虫) やや少

予報の根拠

ア. 県予察圃場において5月のツマグロヨコバイ成幼虫の発生量は1頭であり、平年(3.1頭)よりやや少なかった。

防除上の参考事項

ア. ツマグロヨコバイが媒介する萎縮病は、近年少発生が続いている。

(4) ニカメイガ(越冬世代成虫)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおいて、5月4半旬までに平年同様誘殺を認めていない。

(ジャガイモ)

(1) 疫病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. 5月15日の巡回調査によると、平年同様発生を認めなかった。

イ. 5月23日の季節予報(1か月予報)によると、6月の気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発病をやや助長する条件となる。

防除上の参考事項

ア. 発生圃場では、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

2. 果 樹

(モ モ)

(1) 灰星病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 5月8日の巡回調査によると、花腐れの発生圃場率は0%（平年16.1%）で、5月22日の巡回調査においても芽枯れ、枝病斑の発生を認めなかったことから、幼果への感染量は平年よりやや少ないと考えられる。

イ. 5月23日の季節予報（1か月予報）によると、6月の降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発生をやや助長する条件となる。

(2) 黒星病

予報内容

発生時期 早 発生量 並

予報の根拠

ア. モモの生育は平年より早く推移している。

イ. 5月22日の巡回調査によると、枝上の越冬病斑密度は、平年より少なかった。

ウ. 幼果における本病の潜伏期間は約35日（果実生長第2期以降は20日）とされている。4月下旬～5月の降水量はほぼ平年並で、幼果への感染量は平年並と考えられる。

(3) せん孔細菌病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 5月22日の巡回調査によると、発病葉の発生圃場率は14.3%で平年（20.4%）よりやや低かった。

イ. 5月23日の季節予報（1か月予報）によると、6月の降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発生をやや助長する条件となる。

ウ. 県南部の7月下旬のモモせん孔細菌病の発生と関係の高い「昨年の8月中旬の発生圃場数」（岡山県病害虫防除所調査）は平年並である。

(4) モモハモグリガ（第2世代幼虫）

予報内容

発生時期 遅 発生量 少

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおいて、5月4半旬までに誘殺は認められず、平年（5月15日）より遅い。

イ. 赤磐市のフェロモントラップによると、5月1～4半旬の誘殺数は0頭で、平年（0.4頭）より少なかった。

ウ. 5月22日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年（1.8%）より低かった。

エ. 5月23日の季節予報（1か月予報）によると、6月の気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多いとされており、本虫の発生を助長する条件ではない。

(5) ナシヒメシクイ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップによると、5月1～4半旬の誘殺数は0頭で、平年（1.0頭）より少なかった。越冬世代成虫の誘殺数（4月）は82頭で平年（33.5頭）より多かった。

イ. 5月22日の巡回調査によると、心折れの発生圃場率は3.6%で、平年(6.4%)より低かった。

ウ. 5月23日の季節予報(1か月予報)によると、6月の気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多いとされており、本虫の発生を助長する条件ではない。

(6) カメムシ類

予報内容

発生量 **多**

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における5月1~4半旬のチャバネアオカメムシの誘殺数は32頭で、平年(22.2頭)よりやや多い、ツヤアオカメムシの誘殺数は59頭で平年(16.2頭)より多い。フェロモントラップでのチャバネアオカメムシ誘殺数は277頭で、平年(172.0頭)より多かった。

イ. 5月22日の巡回調査によると、発生圃場率は28.6%で平年(12.2%)より高かった。

ウ. 5月23日の季節予報(1か月予報)によると、6月の気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多いとされており、本虫の発生を助長する条件ではない。

エ. 病害虫発生予察注意報第1号(令和6年5月10日発表)参照。

(ブドウ)

(1) ベと病

予報内容

発生時期 **早** 発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. ブドウ(ピオーネ)の生育は平年より早く推移している。

イ. 県予察圃場のピオーネ、シャインマスカットにおいて、平年と同様に5月下旬まで発生を認めていない。

ウ. 5月22日の巡回調査によると、発生圃場率は9.1%で平年(0%)より高かった。

エ. 5月23日の季節予報(1か月予報)によると、6月の降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発生をやや助長する条件となる。

(2) うどんこ病

予報内容

発生時期 **早** 発生量 **並**

予報の根拠

ア. ブドウ(ピオーネ)の生育は平年より早く推移している。

イ. 5月の日照時間は平年並であり、本病の発生を助長する条件ではない。

ウ. 5月23日の季節予報(1か月予報)によると、6月の降水量は平年並か多いとされており、発生を助長する条件ではない。

(3) 灰色かび病

予報内容

発生時期 **早** 発生量 **並**

予報の根拠

ア. ブドウ(ピオーネ)の生育は平年より早く推移している。

イ. 5月22日の巡回調査によると、発病花穂の発生圃場率は0%で平年(5.7%)より低かった。

ウ. 5月23日の季節予報(1か月予報)によると、6月の降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発生をやや助長する条件となる。

(4) フタテンヒメヨコバイ

予報内容

発生時期 遅 発生量 少
予報の根拠

- ア. 5月22日の巡回調査によると、被害発生圃場率は0%で、平年(4.4%)より低かった。
イ. 5月23日の季節予報(1か月予報)によると、6月の気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多いとされており、本虫の発生を助長する条件ではない。

3. 野菜 (トマト)

(1) 疫病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

- ア. 5月20、21日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年(4.5%)並であった。
イ. 5月23日の季節予報(1か月予報)によると、6月の気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発病を助長する条件となる。

(2) 灰色かび病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- ア. 5月20、21日の巡回調査によると、発生圃場率は14.3%で平年(44.6%)よりやや低かった。
イ. 5月23日の季節予報(1か月予報)によると、6月の気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発病を助長する条件となる。

(3) 葉かび病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

- ア. 5月20、21日の巡回調査では、発生圃場率は42.9%で平年(31.5%)並であった。
イ. 5月23日の季節予報(1か月予報)によると、6月の気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発病をやや助長する条件となる。

防除上の参考事項

- ア. 本病の初発生時期(雨除け栽培トマトでは6月下旬~7月上旬)と病勢進展時期(7月下旬~8月上旬)に効果の高い殺菌剤を予防散布する防除体系は、葉かび病の防除に有効である。

(キュウリ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- ア. 5月20、21日の巡回調査によると、発生圃場率は25.0%で平年(26.8%)並であった。
イ. 5月23日の季節予報(1か月予報)によると、6月の気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発病を助長する条件となる。

(2) 褐斑病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

- ア. 5月20、21日の巡回調査によると、発生圃場率は50.0%で平年(13.7%)よりやや高かった。
- イ. 5月23日の季節予報(1か月予報)によると、6月の気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発病をやや助長する条件となる。

防除上の参考事項

- ア. 被害葉は初期に除去し、処分する。
- イ. 岡山県下ではアミスター20フロアブル、トップジンM水和剤、カンタスドライフロアブル、ゲッター水和剤に対する耐性菌が広く確認されているが、ジマンダイセン水和剤、ダコニール1000などによる病原菌感染前の予防散布が有効である。

(3) 炭疽病

予報内容

発生時期 **並** 発生量 **並**

予報の根拠

- ア. 5月20、21日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年(2.5%)並であった。
- イ. 5月23日の季節予報(1か月予報)によると、6月の気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発病を助長する条件となる。

(ダイコン)

(1) 軟腐病

予報内容

発生時期 **並** 発生量 **並**

予報の根拠

- ア. 5月20日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年(10.0%)並であった。
- イ. 5月23日の季節予報(1か月予報)によると、6月の気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発病をやや助長する条件となる。

(2) コナガ

予報内容

発生量 **やや少**

予報の根拠

- ア. 赤磐市における5月1～4半旬のフェロモントラップへの誘殺数は24頭で、平年(53.4頭)より少なかった。
- イ. 5月20日の巡回調査では、発生圃場率は0%で平年(24.5%)よりやや低かった。

(野菜共通)

(1) アブラムシ類とアブラムシ伝搬性のモザイク病

予報内容

発生量 **アブラムシ類 少**
モザイク病 並

予報の根拠

- ア. 赤磐市における5月1～4半旬の黄色水盤への飛来数は67頭で、平年(482.5

頭)より少なかった。

イ. 5月20、21日の巡回調査によると、アブラムシ類の発生量は平年より少なかった。モザイク病の発生圃場率はキュウリでは50.0%で平年(0%)より高く、トマト及びダイコンでは発生が認められず、平年(トマト:0%、ダイコン:2.0%)並であった。

ウ. 5月23日の季節予報(1か月予報)によると、6月の気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多いとされており、本虫の発生を助長する条件ではない。

(2) ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 5月21日の巡回調査によると、ナスでの発生量は平年並であった。

イ. 5月23日の季節予報(1か月予報)によると、6月の気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多いとされており、本虫の発生を助長する条件ではない。

4. 花 き

(キ ク)

(1) 白さび病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. 5月20、21日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年(1.9%)並であった。

イ. 5月23日の季節予報(1か月予報)によると、6月の気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発病を助長する条件となる。

(2) ナミハダニ

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. 5月20、21日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年(2.2%)並であった。

イ. 5月23日の季節予報(1か月予報)によると、6月の気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多いとされており、本虫の発生を助長する条件ではない。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/>です。

